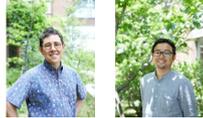


武蔵野大学サステナブルキャンパスプロジェクトにおけるゼロ・ウェイストの活動  
研究員

氏名 鈴木菜央、明石修



本プロジェクトでは、キャンパスのサステナビリティの推進を目的として、大学のサステナビリティの取り組み調査、コミュニティガーデンづくり、ゼロ・ウェイストの推進など、様々な活動を行っている。本稿では、ゼロ・ウェイストの推進活動について紹介する。

ゼロ・ウェイスト・ラボは、学内におけるごみの発生抑制と資源の循環を目指して設立され、学生たちが主体となって様々なプロジェクトを企画・実施している。活動の根底には、「ごみは資源である」という考え方があり、キャンパスを実験場としながら、循環型社会の実現に向けた小さな実践を積み重ねている。

代表的な取り組みとして、「マイボトルステーションプロジェクト」がある。これは、学生が中心となって実施した調査と提案を受け、2021年に有明キャンパスに2台の給水機が導入されたものだ。設置後の3年間で推定77,726本のペットボトルが削減され、CO<sub>2</sub>排出量は18.5トン減、経費にして約621万円の削減効果があった。環境や経済効果だけでなく、学生のウェルビーイング向上や熱中症予防にも効果がみられた。

また、衣類の再利用を促進する古着循環プロジェクトや、使い捨て傘の削減を目指したシェア傘プロジェクトなど、日常生活に密着した活動も展開されている。古着循環では、キャンパス内に設置されたボックスに誰でも衣類を寄付・持ち帰りできる仕組みを整え、2023年から2024年10月までの間に224点の衣類が寄付され、そのうち95点が新たな持ち主のもとへ渡った。シェア傘では、図書館前に設置されたラックとQRコードを活用し、55本以上の傘が貸し出されている。

これらのプロジェクトは、単なる廃棄物削減にとどまらず、大学内外の人々とのつながりを育む機会ともなっている。学生たちは活動を通じて、持続可能な社会の実現には技術や制度だけでなく、信頼や共感、協力といった社会的関係性が不可欠であることを実感している。また、活動の多くは授業の枠を超えたプロジェクトベースの学びとして位置づけられており、自ら問題を発見し、仲間と協働しながら解決策を導き出していくという教育的な意義も非常に大きい。

今後は、これらの活動を学内にとどめず、地域社会や他大学との連携を深めることで、ゼロ・ウェイストの思想と実践をさらに広げていくことや、都市型大学におけるサステナビリティ教育と実践の融合を体現するモデルケースになりたいと考えている。